

# まなびや

## 国民学校つてなに

一九四一(昭和16)年公布の国民学校令により従来の小学校を改めて成立した。皇国民の基礎的練成を目的とする初等教育機関。一九四七(昭和22)年まで存続。

戦時体制が進んでいく中、教育も戦時色が濃厚になっていきました。一九四一(昭和16)年、国民学校令が出され、それまでの尋常小学校は国民学校に変わりました。国民学校は国民の基礎的練成をなす学校とされ、心身を鍛え、国のために身を捧げることが求められました。

従来の教科を国民科(修身、国語、国史、地理)、理数科(算数、理科)、体錬科(体操、武道)、芸能科(音楽、習字、図画及工作、裁縫)の4教科に統合し、太平洋戦争への総力戦体制に対応して言行一致・心身一体の皇国民練成の教育を旨としました。時

### 下宇坂国民学校

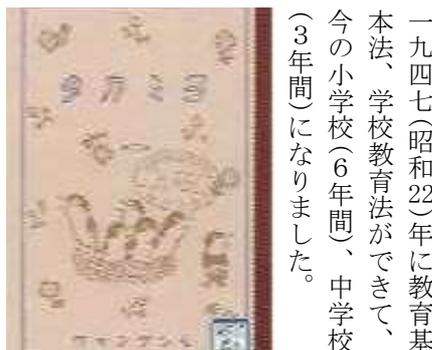
▼昭和15年度卒業生寄附・校名板(福井市下宇坂小学校蔵)



**S16~** 国定教科書 第五期  
**愛読アサヒ読本**  
これまでの、尋常小学校教科書愛称「サクラ」読本では、最初に春が来て桜が咲く喜び



をいっぱい表現していましたが、国民学校になると、桜が咲いてもわき目も振らず体操し、身体を鍛えることから始まりました。  
子どもたちは、国民学校初等科で6年間学んだ後、国民学校高等科(2年)や中等学校(中学校、高等女学校、実業学校)などに進みましたが、進学できる人は限られました。国民学校8年間を義務教育と定めましたが、実施延期のまま終戦を迎えました。終戦後、



一九四七(昭和22)年に教育基本法、学校教育法ができて、今の小学校(6年間)、中学校(3年間)になりました。



墨を塗られた「初等科国語二」右

**教育の民主化 終戦後の教科書 墨塗り教科書**  
国民学校の教科書は、戦争を国民全体が一致団結して戦うための内容でしたが、戦後はGHQ(連合軍最高司令部)の指導のもと、民主主義に基づいた内容に変わります。  
しかし、終戦直後は物資も不足し新しい教科書を作ることは困難でした。そこでしばらくは、国民学校の教科書の戦争に関わる内容や、国家主義的な部分を墨で塗りつぶして使いました。いわゆる「墨塗り教科書」と呼ばれるものです。このほか、ページごとになり取られ元の半分厚さになった教科書や、ページが開けないように糊で貼り合わせた物もあります。